

株式会社 資生堂、取締役執行役員常務 末川久幸を第14代社長に決定

資生堂は1月12日（水）、臨時取締役会を開催し、本年4月1日（金）より代表取締役執行役員社長 前田新造を代表取締役会長に、取締役執行役員常務 末川久幸（すえかわ ひさゆき）を代表取締役執行役員社長とする役員人事を決定しました。

資生堂は現在、「日本をオリジンとし、アジアを代表するグローバルプレイヤー」となることをめざし、2007年に策定した10年間のロードマップの第1フェーズ「すべての活動の質を高める」3カ年計画（2008年度～2010年度）に取り組んでいます。本年4月から第2フェーズ「成長軌道に乗る」をテーマとした次期3カ年計画（2011年度～2013年度）をスタートさせるにあたり、新たなリーダーのもとで改革をさらに加速していくことが望ましいと考え、この機を最適のタイミングと捉えて今回の社長交代に至りました。

2005年6月に社長に就任した前田は、「100%お客さま志向の会社に生まれ変わる事」「大切な経営資源であるブランドを磨き直すこと」「“魅力ある人”で組織を埋め尽くすこと」という3つの夢を掲げ、これまでに国内においては太く強いブランドを育成する「ブランド戦略の革新」、販売ノルマを撤廃した「ビューティーコンサルタントの活動革新」や「営業改革」など、お客さまからの支持を高める活動を推進しました。海外においては、現在、世界83ヶ国で展開するグローバルブランド「SHISEIDO」の育成強化をはじめ、中国における成長の加速、新興国市場への積極的な進出、米国ベアエッセシナル社の買収等を行いました。さらに、拡大するアジアの中間所得者層の市場と日本の低価格帯市場を一体化した展開にも着手しています。これら国内外の成長戦略を加速させると同時に、収益力の向上を目的に、ブランド数や品種数の削減、不採算事業からの撤退やアウトソーシングなど、様々な構造改革を進めました。

以上のほか、透明性と公正性を重視したコーポレートガバナンス改革や、資生堂ならではのCSR活動にも積極的に取り組みました。

後任の末川久幸は、1982年（昭和57年）に入社。化粧品専門店の営業担当を皮切りに、本社で営業担当の研修や化粧品事業の戦略立案業務など国内化粧品事業の主要部門を経験しました。その後、経営企画部にて前3カ年計画（2005年度～2007年度）の企画・立案を手がけ、前田と共に改革を推進しました。2007年には事業企画部長として国内化粧品事業の改革の陣頭指揮にあたり、2008年に執行役員経営企画部長に就任後は、前田の参謀役として経営の舵取りを行ってきました。国内化粧品事業のみならず、全社的な経営の企画・立案に精通しているうえに、強い信念と異なる価値観を受け入れる柔軟性を兼ね備えていることから、前田が進めてきた改革をさらに発展させる最も相応しいリーダーとして臨時取締役会にて選任されました。

【末川久幸の今後の抱負】

前田社長の改革をさらに進め、「日本をオリジンとし、アジアを代表するグローバルプレイヤー」をめざして、まずは「成長軌道に乗る」をテーマとした次期3カ年計画に全力で取り組みたい。資生堂が世界中のお客さまから愛されるために、強いリーダーシップを発揮しグループ全社員の結束力を高めていきたい。さらに、すべてのステークホルダーと強い信頼関係を築き、資生堂を世界の中でより存在感のある会社に磨きあげていきたい。

すえかわひさゆき
末川久幸 プロフィール



出身地	東京都
1959年（昭和34年）	3月17日生まれ（51歳／就任時は52歳）
1982年（昭和57年）	国際商科大学 商学部卒業（現 東京国際大学）
1982年（昭和57年）	株式会社 資生堂入社
2001年（平成13年）	化粧品価値創造本部 ファイティットパ [®] リユークリエーション課長
2001年（平成13年）	マーケティング本部 化粧品計画部課長
2002年（平成14年）	経営改革室課長
2005年（平成17年）	経営企画部次長
2007年（平成19年）	事業企画部長
2008年（平成20年）	執行役員 経営企画部長
2009年（平成21年）	取締役 執行役員 経営企画部長
2010年（平成22年）	取締役 執行役員常務 経営企画部長
2011年（平成23年）	代表取締役 執行役員社長（CEO）就任予定

信 条 『天行健（^{てんこう}天行は健なり）』

中国の四書五経の一つである「易経」からの一節。「自然の変化、天の運行には狂いがないということ。また、君子もそれにならって精励し、たゆまないということ」(小学館 『故事・俗信ことわざ大辞典』より)

趣 味 映画鑑賞、写真撮影、料理